

令和3年度

社会福祉法人瀬戸市社会福祉協議会事業報告

(概説)

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の第4波から第6波の度重なる感染拡大の影響が続き、三密回避、マスク着用、手指消毒等の基本的な感染予防対策の徹底のほか、人流抑制や外出自粛等の制約を受ける生活を余儀なくされました。

本会の事業運営にあっても、各種関係団体間の会議等ではオンラインやオンデマンド、書面による開催が定着してきたものの、エッセンシャルワークを除く個々の福祉現場では、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の発出に対応し、多くの事業活動や行催事において縮小や中止せざるを得ない状況がありました。福祉保健センター運営管理をはじめ指定管理業務においても、感染防止対策に伴う利用制約が継続したため、利用実績等はコロナ禍以前と比較し低調な結果となりました。また、地域住民主体の福祉活動においても対面での活動や交流による感染拡大の不安から、地区社協はじめ「よりどころ」など多くの活動で休止が避けられず、対面で寄り添い支えあう福祉活動の難しさが依然とついて回りました。

一方、コロナ禍に伴う生活困窮世帯に対する国の経済対策の一環である生活福祉資金特例貸付による支援措置の期間延長に対応し、相談支援や申請受付を増員配置するなど、食料支援等も含めて社協がセーフティネットとしての役割を適切に果たしてきました。

前年令和2年度は経験のないコロナ禍の不安と萎縮に終始した感がありましたが、令和3年度は新しい生活様式の定着に加え、コロナワクチンの接種率の高まりや重症化率の減少等から、年度末には令和4年度に向けて通常活動に近づける工夫や機運も高まってきており、ウィズコロナの意識醸成が進みつつあるところとなってきました。これまでの経過や経験を十分に活かしつつ、地域住民や関係諸団体等との連携協力体制を維持しながら、コロナ禍を乗り越え円滑な事業運営とともに地域福祉の推進に努めてまいります。

<地域福祉活動計画 重点施策>

- 1 誰もが集える居場所づくり
- 2 地域で活躍できる支えあいの人づくり
- 3 相談できる・つながる仕組みづくり
- 4 支えあいの心をはぐくむ環境づくり

<令和3年度 重点項目>

1 本会の運営基盤の安定強化

コロナ禍以前の令和元年度までの資金収支の恒常的な不均衡(赤字)を鑑み、財政面を中心とした運営基盤の安定強化のための方策について検討を進めてきました。しかし、これまでの平時にはないコロナ禍に起因した事業である、緊急生活支援業務及び生活福祉資金特例貸付事業等特殊事情が続いていることや、地域福祉活動においても予定通りの事業執行ができない状況等、不確定要素が多く、収支分析や収支見通しを見定める上でのネックとなっています。このような状況の中で法人全体の当期資金収支差額は黒字で決算することができましたが、アフターコロナを見据えつつ、引き続き、収入増、支出節減の両面から有効な安定化方策を具体化し運営基盤の強化に努めていきます。

2 地域の居場所推進事業～わがまち「よりどころ」プロジェクト～の推進

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりの推進のため、歩いて行くことができる身近な地域の居場所「よりどころ」を各地で増やす取り組みとして、広く市民に関心を持っていただけるよう、活動している「よりどころ」を社協だより(年4回発行)の毎号で巡回掲載し広報に努めました。また、活動を再開した「よりどころ」11か所に運営支援として経費の一部助成を行いました。また、一般向け講座として「よりどころ」の説明会及び担い手養成講座を実施する等し、令和3年度は新たに2か所の「よりどころ」の認定につながりました。

3 生活困窮者世帯への支援(通年)

コロナ禍を含め経済的な理由等により生活に困窮する世帯に対して、生活福祉資金、小口融資等の貸付819件、福祉奨学金の支給139件、「せとっちエール便」による食料品配布160件を行うとともに人員体制を整え、相談窓口の強化を図る等、セーフティネットとして取り組みました。

4 ふくしボランティアフェスティバルの開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加対象を関係者に限定して11月20日に実施しました。また、地区社協役員研修会と合同開催とし、ボランティア団体の活動の相互理解や障がい者施設の活動の紹介や展示、社協事業の取り組みの紹介等、今後の福祉関係団体の連携や協働の取り組みにつなげる機会となりました。

5 地域担当制の実践強化

市内7か所の地域包括支援センター単位に、地域担当職員や生活支援コーディネーターを配置し、地域にある生活課題の把握とその解決に向け、地域住民等の会合や活動場面に出席し、ふくし出前講座等を織り交ぜながら、日頃から地域との関わりや信頼関係の構築に努めました。また、地域担当連絡会に研修を盛り込みながら12回開催し、わがまち「よりどころ」プロジェクトの推進、地域福祉活動計画の進捗状況確認、地区社協事業等の情報共有や意見交換を通じ、地域担当者の実践能力の向上に取り組みました。

6 災害ボランティアセンターの充実

災害ボランティアコーディネーター養成講座を12月12日に開催し、9名の新規登録者を得るとともに、災害ボランティアセンターの開設、運営等に要する資機材が瀬戸市から配備される等、同センターの整備と充実を進めました。なお、2月27日に予定した同センターの立ち上げ訓練は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により中止としました。

7 障がい福祉サービス事業等の充実

やすらぎ地域活動支援センターでは、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、利用者のニーズに即した福祉サービスの充実に取り組みました。

介護保険事業において、利用者が望む本人らしい生活を支援する福祉サービスの充実のために地域ケア会議を開催し、必要となる新たなサービスを検討しました。

8 瀬戸市福祉保健センター(やすらぎ会館)の運営

瀬戸市福祉保健センターの管理者として指定を受け、瀬戸市福祉保健センターの管理業務、瀬戸市身体障害者福祉センター、瀬戸市老人福祉センター、瀬戸市プレイルームの4業務の運営を指定管理者事業計画書に基づき適切に実施しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、瀬戸市老人福祉センター・瀬戸市プレイルーム及び貸室の利用の休止や利用制限を機動的に実施したほか、基本的な感染防止対策の徹底や注意喚起を行う等、安全安心な利用に努めました。さらに、瀬戸市と連携して要保護児童家庭等の支援として瀬戸市プレイルームを活用し、利用休止中においても見守りや相談を実施しました。

9 地域包括ケアシステムの深化・推進の取り組み

やすらぎ地域包括支援センターを含む市内7か所の地域包括支援センターが開催する地域ケア会議や瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体等を通じて、基幹型地域包括支援センターと生活支援コーディネーターが関係機関と連携を図り、地域課題の抽出に向けた検討を行いました。

<主な事業内容>

1 社会福祉推進事業

(1) 役員会等の開催

主な議案

- ・ 評議員選任・解任委員の選任
- ・ 評議員選任・解任委員会の開催
- ・ 評議員選任候補者の推薦
- ・ 評議員会の開催
- ・ 事業報告・決算
- ・ 会長及び副会長の選定
- ・ 顧問の選任
- ・ 福祉サービスに係る苦情解決事業に関する実施要綱の第三者委員の選任
- ・ 補正予算(第1号)、(第2号)
- ・ 事業計画・予算
- ・ 事務局組織規程の一部改正
- ・ 職員の給与に関する規程の一部改正
- ・ 育児・介護休業等に関する規程の一部改正
- ・ 役員賠償責任保険の加入

(2) 瀬戸市社会福祉大会(縮小開催)

顕彰の種類	被顕彰者	
市長感謝	2団体	11人
社協会長表彰	2団体	9人
社協会長感謝	1団体	32人
赤い羽根作品		14人

(3) マスコットキャラクターを活用した広報啓発活動の推進

イオン瀬戸みずの店で開催した社会福祉協議会のイベントにおいて「せとっち」の着ぐるみを活用し、幅広い世代に対して広報啓発活動を行いました。また、ふくし出前講座等で社会福祉協議会を周知するとともに、親しみをもてるよう「せとっち」のステッカーを配布する等、啓発活動の推進に取り組みました。

(4) 社協だより・ホームページ等の充実

福祉に関する理解促進や本会が実施する事業の周知等のため、広報紙「社協だより」を年4回(4、7、10、1月)発行しました。また、ホームページやSNSを活用し、タイムリーできめ細やかな情報の発信に努めました。

(5) 職員研修計画に基づいた研修の実施

外部研修は減少しましたが、社会福祉協議会内の地域福祉活動計画に関わる進捗状況確認、各事業における目標管理・評価の実践、地域担当連絡会を活用した職員研修を実施しました。

(6) 各種団体との連携強化

ボランティア団体、福祉団体等で構成するやすらぎ連絡会は、福祉夏まつりや福祉クリスマス会、お楽しみ交流会の実施が目的ですが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、連絡会を中止し、イベントは中止及び一部縮小開催としました。代わりに障がい者施設による手作り品の販売促進の検討や施設利用団体の作品展示の実施等、昨年に引き続き連携を図りました。

また、本会の施設会員で構成する施設連絡会は3月に書面開催し、情報提供を行いました。

2 地域福祉推進事業

(1) 地域に必要とされる地区社協活動の支援

ア 地区社協会長連絡会及び企画委員会の開催

主な議案

- ・ 会員募集
- ・ 敬老事業
- ・ 歳末たすけあい配分事業
- ・ 地区社協役員研修会
- ・ 企画事業審査会
- ・ 地区社協活動助成事業
- ・ 次年度配分金
- ・ 地区社協活動マニュアルの見直し

イ 地区社協役員研修会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加対象を関係者に限定して『ふくしボランティアフェスティバル』と合同開催としました。また、ボランティア団体の活動の相互理解や障がい者施設の活動の紹介や展示、社協事業の取り組みの紹介等、今後の福祉関係団体の連携や協働の取り組みにつなげる機会になりました。

開催日	令和3年11月20日(土)
開催場所	やすらぎ会館 5階大集会室他
内容	今後の地区社協事業に向けて ～ボランティア・社協の取り組み・障がい者施設等の活動を生かして～

ウ 地区社協事業

予定をしていた多くの事業が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止されました。その中、感染防止対策を講じながら各地区の実情に応じた事業等が実施されました。

また、地域活動の再開に向けて「地区社協事業・企画事業を考える際のヒント集」を作成し、各地区社協で周知を図りました。

区分	事業名	地区社協数 (全19地区)
主な事業	歳末たすけあい配分事業	19地区
	ふれあい会食	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
	子育てサロン	7地区
	高齢者の集いの場作り (いきいきサロン等)	8地区
	広報紙発行	17地区
企画事業	買い物移動支援	1地区
	ボッチャ交流会	1地区

(2) 地域の居場所推進事業～わがまち「よりどころ」プロジェクト～の推進

歩いて行くことができる身近な地域の居場所「よりどころ」に対し、看板の設置・認定と運営に関する費用の一部助成を行いました。

多くの「よりどころ」で新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い活動が休止されました。

看板の設置・認定の累計	46か所(前年度対比 2か所増)	
運営に関する費用助成	11か所	155,000円
開催回数及び参加者数	1,254回	延べ5,221人

(3) 子育て支援・子育てサロンの拡充

新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな子育てサロンの拡充にはつながりませんでしたが、実施に向けた3か所の子育てサロンで感染症対策の助言等を行いました。

(4) 地域支えあい会議の実施

地域包括支援センターしなの圏域で地域の居場所作り等をテーマに包括の地域ケア会議と地域支えあい会議の共催の取り組みとして開催しました。地域ケア会議にて地域の関係団体への調整を生活支援コーディネーターが役割分担をすることで円滑な実施運営に努めました。

(5) 地域担当制の実践強化(市内7か所の地域包括支援センター単位)

市内7か所の地域包括支援センター単位に、地域担当職員や生活支援コーディネーターを配置し、地域にある生活課題の解決に向け、地域住民とともに地域福祉活動の推進を図りました。また、地域担当連絡会に研修を盛り込みながら12回開催し、わがまち「よりどころ」プロジェクトの推進、地域福祉活動計画の進捗状況確認、地区社協事業等の情報共有や意見交換を行いました。

(6) 買い物支援活動等のサポート

買い物に困っている住民や地域の課題解決に向けた支援方法を検討するため、老人福祉センターのバスの運行空き時間を利用して買い物支援を企画していましたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止としました。市内の住民組織が独自に取り組んでいる買い物支援の実施方法等について情報収集するとともに地域担当連絡会において情報共有し、地域での課題解決に向けたサポート体制作りに努めました。

(7) 子ども食堂、フードパントリーの実施

子どもの孤食を防ぎ、学習支援をすることで、安心して子どもが過ごせる居場所づくりを目的に子ども食堂の開催を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。このため「せとっちエール便」という食料支援活動に切り替え、地域住民や企業から寄せられた食料品等をコロナ禍の影響で収入が減少した方や生活困窮の方を対象とした食料品配布を実施しました。

食料品募集期間	配布家庭数
通年	160件

(8) 保健・医療・福祉関係機関との連携強化

コロナ禍で対面方式の会議開催が減少しましたが、オンラインを活用した会議等を通じて瀬戸旭医療・介護連携推進協議会や瀬戸介護事業連絡協議会をはじめ自治会、民生委員児童委員協議会等の地域の各種団体との連携強化に努め、支援が必要な場合において円滑に必要な支援へとつなげることができました。

(9) 歳末たすけあい募金の配分

ア 歳末たすけあい募金配分金関係

介護保険要介護4・5の方、身体障害者手帳1・2級の方、療育手帳A判定の方、精神保健福祉手帳1・2級の方及び母子父子家庭等の18歳未満の子を対象に、介護用品券・福祉タクシー券・図書カード・シルバー人材センターサービス提供券の交付を実施しました。

内容	交付件数	交付決定金額
歳末たすけあい募金配分事業	1,677件	3,354,000円

イ 各地区社協において、介護用品の支給、おせち料理の配達、クリスマス会、慰問等の地域福祉事業を実施しました。

ウ 障がい者施設及び瀬戸市母子福祉会への助成を実施しました。

対象	助成金額
障がい者施設(20施設)	229,000円
瀬戸市母子福祉会	75,000円

(10) ふくし出前講座の拡充

「よりどころ」や地区社協等の会合に出向き、わがまち「よりどころ」プロジェクトや認知症を含めた健康講座、その他福祉に関する様々な情報や知識について講座を実施しました。

内容	実施件数
ふくし出前講座	8件

(11) 障がい者、高齢者の自立支援及び社会参加活動の促進

地域活動支援センターでの活動や認知症カフェの担い手等の社会参加の機会を通じ、障がい者、高齢者の自立に向けた支援に取り組みました。

(12) やすらぎ木曜市の開催及び地域的展開

障がい者就労施設等の利用者の就労体験や労働意欲向上及び会館利用者との交流を目的として、毎週木曜日に各施設の製品等をやすらぎ会館1階ロビーで販売する「やすらぎ木曜日」を企画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止としました。

(13) ふくしボランティアフェスティバルの開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加対象を関係者に限定して『地区社協役員の研修会』と合同開催としました。また、ボランティア団体の活動の相互理解や障がい者施設の活動の紹介や展示、社協事業の取り組みの紹介等、今後の福祉関係団体の連携や協働の取り組みにつなげる機会になりました。

3 相談事業

(1) 心配ごと相談の実施

毎週木曜日の午後1時から面接相談を実施しました。

開設回数	取扱延件数	1回あたり取扱件数
37回	33件	0.9件

(2) 法律相談の実施

毎月第1から第4木曜日の午前9時から弁護士による面接相談を実施しました。

開設回数	取扱延件数	1回あたり取扱件数
45回	247件	5.5件

(3) 福祉総合相談の実施

福祉の総合相談窓口として市内各所より高齢者や障がい者及びその家族から相談があり、情報提供や各種サービスの連絡調整、関係機関への紹介等を実施しました。また、介護支援専門員等の福祉従事者や福祉・医療の専門機関、民生委員等地域の方から多くの相談があり、支援が必要な相談は専門機関につなぐ等の連携に取り組みました。

相談内容については、高齢者に関する相談が最も多く、特に認知症に関する相談件数が昨年度よりも多くなっています。

内容	相談延件数
高齢者	7,328件
障がい者	745件
認知症に関する相談	1,500件
権利擁護に関する相談	539件

4 ボランティア関連事業

(1) ボランティアセンター機能の充実

ボランティアに関する相談・活動等に対応するため、ボランティア相談の実施、ボランティア登録の拡充等、ボランティアセンターの運営強化に努めました。また、一般市民を対象とした各種ボランティア講座、登録ボランティアの紹介及びボランティア活動の啓発、情報の提供を広報紙・ホームページ・フェイスブックを活用し取り組みました。

ア ボランティアセンター運営委員会の開催

主な議案

- ・ 事業報告
- ・ 瀬戸市福祉推進校、福祉実践教室説明及び体験会、児童・生徒の福祉実践教室
- ・ 各種講座の開催
- ・ 事業計画
- ・ 地域福祉ボランティア活動助成金交付事業
- ・ 瀬戸市ボランティアセンターの運営に係る組織体制等の再構築について

イ ボランティアに関する状況

ボランティア登録	団体：77団体 (1,433人)	個人：13人	総数1,446人
ボランティア相談	活動依頼数27件	相談件数29件	総件数56件
ボランティアサロン	開催5回	参加人数184人	
ボランティア保険	加入総数：2,064人		

ウ 講座等に関する状況

内容	対象	内容	開催日数	参加者数
講座	市民及び 登録ボランティア	・災害ボランティア コーディネーター養成講座	1日	14人
	教職員 (小・中・高等学校)	・福祉実践教室説明及び体験会	1日	9人
	小学生 (4年生～6年生)	・こどもふくし体験きゃらばん	2日	延べ20人
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「社協だより」…年4回掲載 ・ホームページ、フェイスブックの活用…随時更新 ・「広報せと」…ボランティア講座等の開催のお知らせ掲載 ・「ボランティアだより」…年3回発行(10、12、3月) 			
運営委員会	開催回数 3回 ※4月は、新型コロナの影響で書面開催			

エ 福祉実践教室開催状況

コロナ禍での開催にあたり、講師やボランティアと感染予防対策を徹底し、実施しました。

福祉実践教室：通年 参加者数：1,910人												
<科目別実施回数(専門学校を含む)>												(単位：回)
区分	科目											合計
	車いす	手話	要約筆記	点字	視覚障がい者ガイド	知的障がい者理解	音声訳	高齢者疑似体験	盲導犬	講演	認知症サポーター	
小学校	8	19	1	13	3	1	0	3	2	0	1	51
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高等学校等	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	1	6
合計	8	20	1	13	4	1	0	5	3	0	2	57

(2) ボランティア団体への支援

瀬戸市ボランティア連絡協議会をはじめ17団体の登録ボランティアを対象に、地域福祉ボランティア活動助成金を交付し、活動の支援に取り組みました。

区分	件数	金額
ボランティア活動を啓発、または拡大するために必要な経費	7件	222,052円
ボランティア活動に必要な資器材等の購入に要する経費	10件	581,765円
ボランティア活動に特に必要と認められる経費	1件	180,131円
合計	18件	983,948円

5 援護活動事業

(1) 生活福祉資金、小口融資等の貸付

ア 生活福祉資金貸付事業(新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付)

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少した世帯に対して、相談支援及び必要な資金の貸付を実施しました。

内容	貸付決定延件数	貸付決定金額
緊急小口資金	307件	55,450,000円
総合支援資金 (延長、再貸付等含む)	488件	236,976,000円

イ 生活福祉資金貸付事業

他の資金の借入れが困難な低所得世帯、障がい者や高齢者のいる世帯に対して、相談支援及び必要な資金の貸付を実施しました。

内容	貸付決定件数	貸付決定金額
教育支援資金	8件	28,308,000円

ウ 法外援護

社会福祉協議会の自主財源を原資に、2万円を上限に小口融資の貸付を実施しました。

内容	貸付件数	総貸付金額
小口融資資金貸付	16件	289,000円

(2) 福祉奨学金の支給

低所得世帯の生徒が高等学校及びこれに準ずる専門学校へ通学する場合に必要な学資の一部として奨学金の支給を実施しました。

内容	対象者	支給額
福祉奨学金	5人	50,000円(10,000円/1人)

(3) 福祉奨学金入学準備費の支給

新小学1年生及び新中学1年生の入学援助のため、瀬戸市の就学援助費新入学児童生徒学用品費を受給する方を対象に、福祉奨学金入学準備費の支給を実施しました。

内容	対象者	支給額
福祉奨学金入学準備費	134人	2,680,000円(20,000円/1人)

6 各種福祉活動

区分	事業内容
児童青少年福祉	1 福祉教育推進校の指定 4校 小学校 水南、西陵 中学校 品野 高等学校等 瀬戸工科
障がい者福祉	1 福祉クリスマス会 令和3年12月11日(土)、12日(日) 壁面に作成したクリスマスツリーにメッセージを書いたカードを飾り付け、参加者にプレゼントを配布 40件
社会福祉一般	1 広報活動の充実強化(社協だより、ホームページ等) 2 社会を明るくする運動への協力 3 車いすの貸出 306台 4 ゆうあい号(車いすスロープ付軽自動車)の貸出 93件

7 おもちゃ図書館「クレヨン」の運営及び活動

利用制限や消毒作業等感染対策を徹底し、障がいのある子どもや小学生以下の子ども達が、おもちゃを通して親子で楽しく遊びながら成長できるように支援を再開しました。

また、休止中においても障がい児者や子育て関連施設へおもちゃの貸出は実施しました。

利用者数	開館日数	おもちゃ貸出数
19人	15日	19個(障がい児関係者及び子育て関係団体)

8 受託運営事業

(1) 各種福祉関係団体事務局

瀬戸市から委託を受けて、6団体(瀬戸市遺族連合会、瀬戸市更生保護女性会、瀬戸市民生委員児童委員協議会、瀬戸市子ども会連絡協議会、瀬戸市母子福祉会、瀬戸市老人クラブ連合会)の事務局等の運営業務を行いました。

(2) 生活支援コーディネーター配置業務(第1層・第2層)

瀬戸市から委託を受けて、市内全域(第1層)の生活支援コーディネーター、市内7か所の地域包括支援センター圏域からモデル的に配置された3圏域(ふたば地域包括支援センター圏域・地域包括支援センターしなの圏域・地域包括支援センター中央東圏域)に第2層生活支援コーディネーターを配置し、生活支援・介護予防サービスの提供体制整備の推進を図りました。

ア 資源の把握等の実施

地域におけるボランティア等の生活支援サービスに関連する資源の把握やネットワーク構築に向けて各種研修会・会議への参加を行い、生活支援・介護予防サービスの整備に向けた情報の把握に努めました。

また、資源把握をした情報を基に瀬戸市資源マップ「つながり やっぱり おもいやり」習い事(運動・体操・スポーツ)版を作成しました。

事業内容	件数
資源の把握及び開発	137件
ネットワーク構築	259件
ニーズと取り組みのマッチング	226件
サービスの担い手の養成	13件
合計	635件

イ 担い手養成講座「地域の支えあい・助けあいの関係づくり始めてみませんか？」～わがまち「よりどころ」プロジェクト説明会～の実施

支えあいや助けあいの関係づくりのため、地域住民が集える開放的な居場所の推進を図ることを目的としてスタートしました、わがまち「よりどころ」プロジェクトの周知を図り、身近な地域での支えあいが広がるように「よりどころ」を実施する担い手の養成講座を開催しました。

開催日	参加者数
令和4年3月1日(火)	2人

ウ 瀬戸市高齢者移動支援推進事業への協力

瀬戸市が、愛知県から令和2年度より3年間受託して実施しています「瀬戸市高齢者移動支援推進事業」の実施に向けて、外出先の選定にあたり、「アピタ瀬戸店」や「DCMカーマ21」等の企業への依頼・実証実験の実施への協力を行いました。

(3) 緊急生活支援業務(新型コロナウイルス感染症対策緊急生活支援事業)

新型コロナウイルスの感染者・濃厚接触者として自宅待機となり、生活に必要な食料品や日用品等の調達に困難な方の依頼に応じて買い物代行及びパルスオキシメータ貸出の支援を行いました。

内容	件数
生活支援	114件

(4) 瀬戸市福祉保健センター(やすらぎ会館)の管理・経営

ア 瀬戸市福祉保健センターの施設管理

指定管理者制度により、福祉保健センター(やすらぎ会館)の指定を受けて、管理・経営を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用休止や利用制限、消毒の徹底や利用時の注意喚起を行う等、安全な管理運営を行いました。

階	施設名	件数	人数
1階	第1作業室	336件	2,558人
	第2作業室	231件	1,117人
	日常生活訓練室	14件	67人
2階	プレイルーム	250件	3,403人
	視聴覚室	332件	5,163人
	201会議室	308件	3,080人
	ボランティア室	110件	949人
	相談室	114件	485人
3階	教養娯楽室	108件	492人
	和集会室	113件	1,807人
	相談室	0件	0人
4階	健診室	129件	3,942人
	401会議室	0件	0人
5階	大集会室	163件	4,711人
	看護指導室	28件	829人
	リハビリ指導室	100件	1,010人
	501集会室	52件	818人
	栄養実習室	7件	20人
合計		2,395件	30,451人

イ 瀬戸市身体障害者福祉センターの運営

利用制限や消毒作業等感染対策を徹底し、障がい者を対象とした福祉講座を開催しました。一方、利用制限や外出自粛等から、来館による相談に対する助言・指導及び各種サービスの提供が十分に実施できませんでした。

福祉夏まつり及び福祉お楽しみ交流会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止及び縮小開催としました。

内容	開催日
福祉夏まつり	令和3年8月6日(金)中止
福祉お楽しみ交流会	令和4年2月18日(金)、19日(土) 演芸会…中止 作品展示…出品数106点、参観者106名 体験コーナー…体験者33人

ウ 瀬戸市老人福祉センターの運営

感染防止策強化宣言及び緊急事態宣言発出期間中の、4月～6月、8月・9月は利用休止としました。利用休止期間中は、利用者への電話連絡により、安否確認や困りごとの相談を実施した。利用再開に際しては、フロアの換気、手指消毒や検温の徹底のほか、利用者同士の密集・密接を防ぐために利用制限や浴室利用に際しては事前予約制とする等、感染対策を徹底しました。

また、老人福祉センター利用者へ軽運動の時間を設け、フレイル予防の取り組みの一環として取り組みを行いました。

(ア) 各種教室の状況

利用制限や消毒作業等感染対策を徹底し、60歳以上の高齢者と障がいのある方を対象に、ニーズに合わせた教養講座等のサービス提供に努めました。

区分	参加者			開催日数
	高齢者	障がい者	延人数	
陶芸教室	6人	0人	33人	6日
パソコン教室(2コース)	9人	1人	57人	12日
絵手紙教室	6人	0人	22人	4日
編み物教室	4人	2人	41人	8日
書道教室	6人	0人	31人	6日
スマホ教室	6人	0人	12人	2日
フレイル予防教室	3人	0人	18人	6日
ボッチャ教室		3人	12人	4日
折り紙教室		2人	8人	4日
合計	40人	8人	234人	52日

(イ) 団体別利用状況

老人クラブ	教室	サークル	その他の団体	合計
0人	316人	0人	0人	316人

(ウ) 設備・事業別利用状況

ヘルストロン	入浴	囲碁・将棋	相談	合計
4,138人	1,788人	181人	0人	6,107人

(エ) 送迎バス利用状況

区分	利用日	利用人数
個人利用者	月・木曜日	273人
老人クラブ	水・金曜日	0人
その他の団体		0人
合計		273人

エ 瀬戸市プレイルームの運営

感染防止策強化宣言及び緊急事態宣言発出期間中の、4月～6月までを利用休止とし、6月21日からは事前予約制で利用を再開しました。感染症予防に努め、健康チェック表を用いて親子の体調を把握し、使用したおもちゃやプレイルーム内の消毒を徹底し安心利用に取り組みました。

講座・教室等については、人気の教室や育児中に孤立しがちな保護者向けの講座等を、利用制限や消毒作業等感染対策を徹底する等開催を工夫しながら実施しました。

また、育児中の保護者同士がつながるきっかけをつくる場として「ベビママあつまれ」を毎週木曜日に開催し、育児の悩みごと等を相談できる関係を築くことができるよう支援しました。

区分		回数	人数
講座・教室等	育児講座	37回	382人
	親子お楽しみ会	0回	0人
	小学生講座	7回	80人
	小計	44回	462人
プレイルーム	育児サロン	211回	3,048人
	一般利用者数	39回	355人
	小計	250回	3,403人
合計		294回	3,865人

(5) 日常生活自立支援(福祉サービス利用援助)事業

愛知県社協から委託を受けて、認知症高齢者・知的障がい者・精神障がい者等で判断することが不安な方のために福祉サービスを利用する際の援助等の事業を実施しました。

区分	件数
新規契約数	2件
年度末契約数	15件

内容	対象者	認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	合計
問い合わせ件数 (制度、事業について)		8件	2件	2件	12件
初回相談件数 (初回相談受付)		3件	2件	4件	9件
相談援助件数		70件	54件	71件	195件
合計		81件	58件	77件	216件

(6) 地域包括支援センター事業

ア やすらぎ地域包括支援センター

瀬戸市が設置する地域包括支援センターの1つとして、陶原・長根地区に住む高齢者を対象に、自宅訪問による実態把握等を行いました。介護予防教室に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため昨年度に引き続き、令和3年度も休止となりました。

また、認知症初期集中支援チームで、認知症の方と家族に対する包括的かつ集中的な支援を行いました。

事業実施内容	実績
介護予防(口腔)教室実施回数	0回
地域はつらつ講座実施回数	0回
高齢者実態把握件数	152件
総合相談支援件数(処遇困難事例)	2件
介護支援専門員に対する支援件数	71件
住宅改修理由書作成件数	6件
認知症初期集中支援延件数	13件

イ 瀬戸市基幹型地域包括支援センター

市内7か所の地域包括支援センターの全体調整や支援、緊急・困難ケースへの対応、地域包括支援センター及び介護支援専門員の資質向上研修、認知症カフェの開催、医師会等の医療関係機関及び生活支援コーディネーターとの連携、介護予防・日常生活支援総合事業に関する情報収集等を実施しました。また、認知症地域支援推進員として9月の世界アルツハイマー月間に合わせて市役所、図書館、企業等で認知症に関する啓発活動を行い、認知症ケアパスや相談先等の周知をしました。さらに認知症当事者のニーズ(要望)と認知症サポーターの活動をマッチングする、チームオレンジの活動を通して、認知症当事者の社会参加活動等を行うための体制整備を行いました。

事業実施内容	実績
相談延件数	1, 415件
相談延件数のうち認知症に関する相談延件数	412件
介護保険事業所向けに開催した研修回数	2回
行政・地域団体等の依頼に応じて開催した講座回数	3回
地域ケア会議の開催及び出席した回数	7回
認知症カフェの開催回数	22回

(7) 介護保険訪問調査事業

瀬戸市から委託を受けて、要介護認定調査対象者に対して介護支援専門員が訪問調査等を行いました。

内容	件数
介護保険訪問調査	2, 914件

9 介護保険事業

(1) 居宅介護支援(ケアプラン作成)事業

せと地域福祉サービスセンター(居宅介護支援事業所)を運営し、要介護認定者にケアプランを作成しました。

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
利用者数	30人	18人	11人	7人	7人	73人
作成延件数	422件	215件	179件	88件	80件	984件

(2) 介護予防支援(介護予防ケアプラン作成)事業

やすらぎ地域包括支援センターの事業として、陶原・長根地区の要支援認定者及び事業対象者に介護予防ケアプランを作成しました。

区分	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
利用者数	44人	62人	73人	179人
作成延件数	453件	688件	850件	1,991件

10 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための事業

(1) 地域生活支援(地域活動支援センター)事業

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、創作的活動、社会適応訓練、レクリエーション及び送迎等のサービスを行いました。また、多くのボランティアの協力を得ながら、一人ひとりの適性に合わせた活動支援を行いました。

区分		人数	開催日数
利用登録者		24人	292日
参加延人数	利用者	1,493人	
	ボランティア	596人	

11 その他の支援事業

(1) 瀬戸市共同募金委員会への支援

ア 共同募金運動(赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい募金)の実施

内容	募金実績額
赤い羽根共同募金	10,359,201円
歳末たすけあい募金	6,586,058円
合計	16,945,259円

イ 募金機能付き自動販売機の普及啓発

内容	延設置台数
募金機能付き自動販売機	19台

(2) 日赤瀬戸市地区への支援

ア 活動資金の募集

内容	募集実績額
一般社資	6,971,869円
法人社資	724,000円
合計	7,695,869円

イ 災害見舞金及び物資の支給

支給件数	災害見舞金	物資
3件	25,000円	毛布8枚、緊急セット2セット

ウ 災害義援金等の受付

被災者支援の一助とするため、やすらぎ会館等に募金箱を設置して災害義援金を募り、また窓口にて受付を行いました。